

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成 28 年度(2016 年度)第 3 四半期)

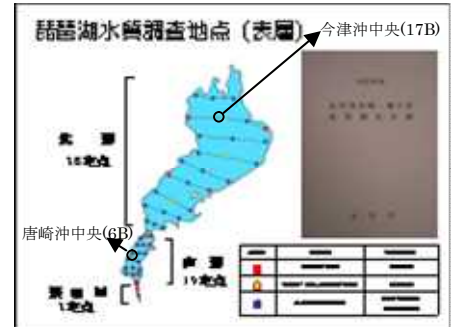
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成 28 年度第 3 四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖 28 地点、南湖 19 地点の年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては北湖では今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央(通称「17B」)、他 1 地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月 2 回実施しています。



◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 28 年度第 3 四半期の水質概況は次のとおりです。

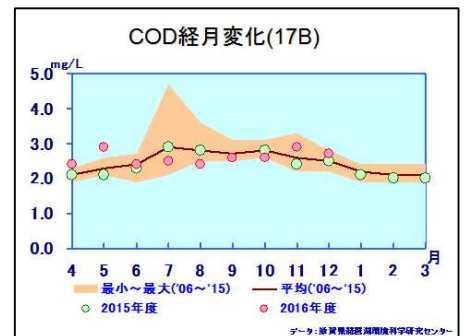
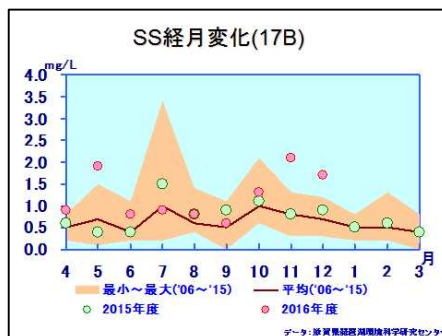
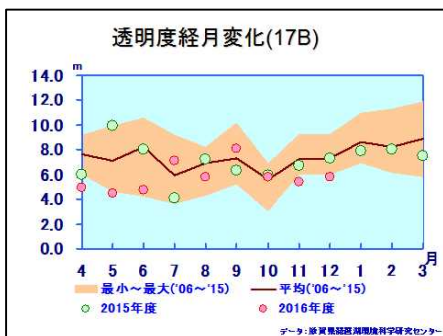
○今津沖中央(17B) 調査結果

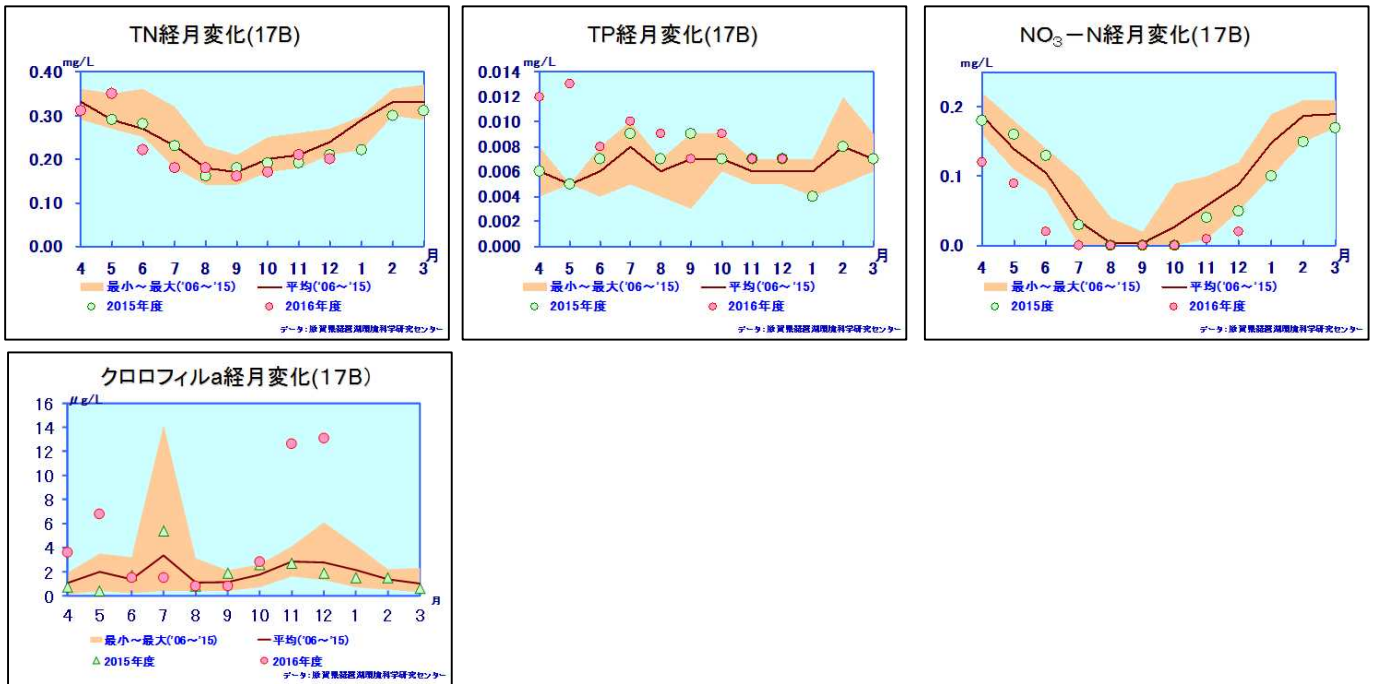
透明度については、10 月は過年度(過去 10 年間)平均値並みとなりましたが、11 月から 12 月にかけて透明度は 11 月は 5.4m(過年度最低値:6.0m)、12 月が 5.8m(過年度最低値:6.0m)と両月とも過年度最低値よりも低くなりました。透明度に関連する項目である浮遊物質質量(SS)についても、透明度と同様に 10 月は過年度平均値並みでしたが、11 月、12 月とも過年度最高値を更新しました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、10 月は過年度最低値と同値(2.6 mg/L)で、11 月、12 月は過年度平均値よりも高くなりました。

全窒素(TN)は、10 月は過年度最低値と同値で、11 月は過年度平均値と同じ値と少し上昇しましたが、12 月は過年度最低値よりも低くなりました。全窒素の形態の一つである硝酸態窒素($\text{NO}_3\text{-N}$)は 10 月まで報告下限値(0.01 mg/L)未満でしたが、11 月は 0.01 mg/L であり、12 月は 0.02 mg/L と両月とも過年度最低値よりも低くなりました。また、全りん(TP)は 10~12 月とも過年度最高値と同値となりました。

第 3 四半期は透明度と SS がそれぞれ過年度最低と最高を記録し、同時にクロロフィル a が特異的に上昇したため、グラフを掲載しました。11 月、12 月に過年度最高値を大きく上回る値を記録しました。これは大型緑藻の植物プランクトン(ミクラステリアス ハーディ)が大増殖していたため、透明度の低下、SS 及びクロロフィル a の上昇につながったものと考えられます。





○唐崎沖中央(6B)調査結果

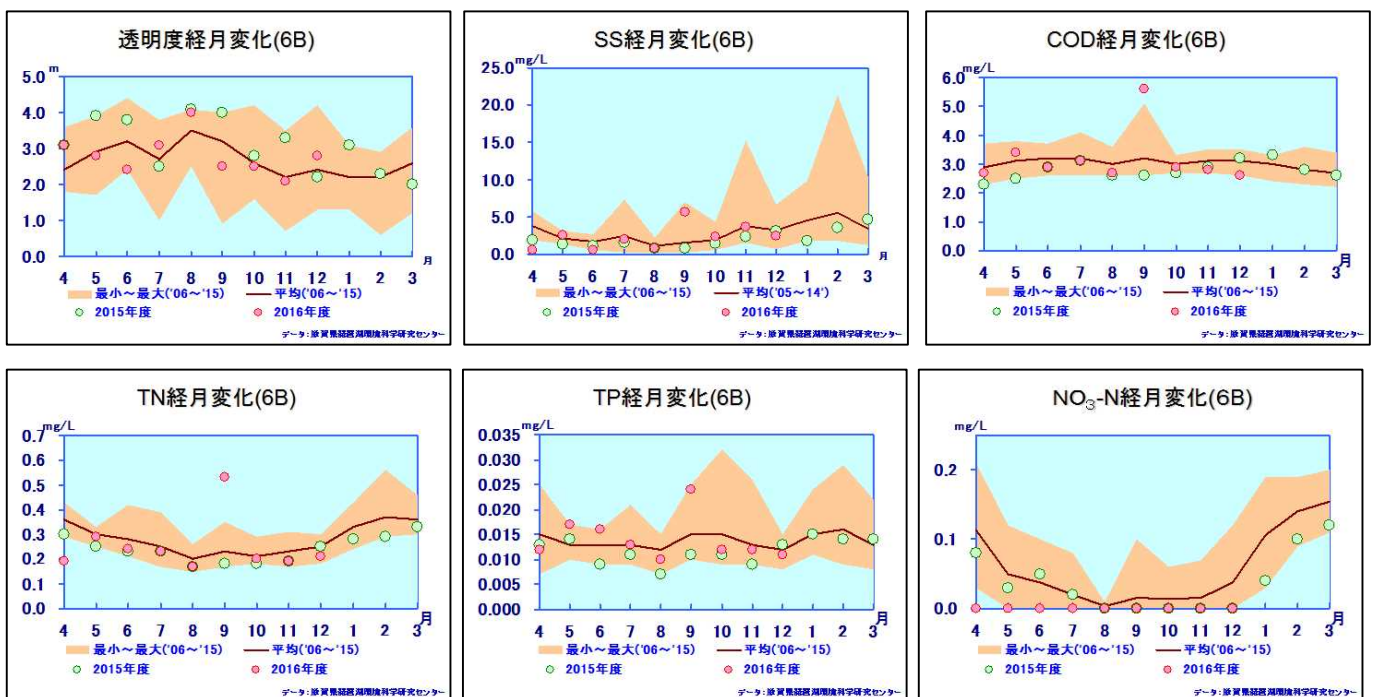
透明度については、10月から12月にかけては過年度平均値並みの値となりました。SSは9月は過年度最高値とほぼ同じ値となりましたが、10月以降は過年度平均値並みの値に戻りました。

CODについてもSSと同様に、9月は過年度最高値よりも高い値となりましたが、10月以降は過年度平均値並み、もしくは過年度平均値よりも低い値となりました。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、10月から12月まで過年度平均値並みの値となりました。硝酸態窒素(NO₃-N)は10～12月とも報告下限値(0.01 mg/L)未満であり、枯渇した状態が4月から継続しています。

また、全りん(TP)は、10月から12月の間過年度平均値並みの値でした。

9月の各項目が高くなっているのは、アオコ種の植物プランクトンの増殖が原因の一つと考えられましたが、10月以降はどの項目もほぼ過年度平均値並みの値に戻りました。



《問い合わせ先》 〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター 環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: de51400@pref.shiga.lg.jp